

ダイキン ルームエアコン

据 付 説 明 書

二次元バーコードは製造用コードです。

安全上のご注意

- 据付け前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく据え付けてください。
- ここに示した注意事項は、次の2種類に分類しています。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

	警告	誤った据付けにより、死亡や重傷などの重大な結果に結び付く可能性が大きいもの。
	注意	誤った据付けにより、傷を負う可能性、または物的損害の可能性のあるもの。状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。

●本文中に使われる「絵表示」の意味は次の通りです。

	指示を守る		アース線接続		禁止
--	--------------	--	---------------	--	-----------

●据付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れのしかたを説明してください。

警告

- 据付けは、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する。
お客様自身で据え付けられ不備があると、水漏れや感電、火災の原因になります。
- 据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。
据付けに不備があると、水漏れや感電、火災の原因になります。
- 設置工事部品は、必ず付属品および指定の部品を使用する。
指定部品を使用しないと、ユニットの落下や水漏れ、感電、火災の原因になります。
- 据付けは、重量に十分耐える所に確実に行う。
強度不足や取付けが不完全な場合、ユニットの落下により、けがの原因になります。
- 電気工事は、電気工事士の資格のある方が「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」およびこの据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
電源回路容量不足や施工不備があると、火災や感電の原因になります。
- 据付工事は、必ず電源を切って行う。
電源を入れたまま電気部品に触れると感電の原因になります。
- アース工事を確実に行う。
アース線は、ガス管や水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。
アースが不十分な場合は、感電や火災の原因になります。
- 漏電しゃ断器を取り付ける。
漏電しゃ断器が取り付けられていないと、感電や火災の原因になります。
- 配線を途中で接続しない、電源コードを束ねない、より線や延長コードの使用、タコ足配線はしない。
施工不備があると、発熱や感電、火災の原因になります。
- 室内外ユニット間および電源の配線は、所定の電線を使い確実に接続し、端子部に電線の外力が加わらないよう確実に固定する。
接続や固定が不完全な場合、発熱や感電、火災の原因になります。
- 室内外ユニット間および電源の配線は、閉鎖弁カバーまたは右側板などの構造物が浮き上がらないよう電線を成形し、カバーを確実に取り付ける。
カバーの取付けが不完全な場合、端子部の発熱や感電、火災の原因になります。
- エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒(R410A)以外の空気などを混入させない。
空気などが混入すると、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因になります。
- 指定冷媒(R410A)以外は使用しない。
機器の故障や破裂、けがなどの原因になります。
- ポンプダウン作業では、冷媒配管を外す前に圧縮機を停止する。
圧縮機を運転したまま、かつ開閉弁(バルブ)開放状態で冷媒配管を外すと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因になります。
- 据付作業では、圧縮機を運転する前に、確実に冷媒配管を取り付ける。
冷媒ガスが取り付けられておらず、かつ開閉弁(バルブ)開放状態で圧縮機を吸引すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因になります。
- 作業中に冷媒ガスが漏れた場合は換気する。
冷媒ガスが漏れると、有毒ガスが発生する原因になります。
- 設置工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。
冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーターやコンロ、ストーブなどの火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります。
- 配管・フレアナット・工具は指定冷媒(R410A)専用のものを使用する。
既存冷媒(R22)の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。
- 調理室など油煙の多い所、または可燃性ガスや腐食性ガス、金属製のホコリのある場所には設置しない。
火災や故障の原因になります。
- 可燃性もの(ヘアスプレーや殺虫剤など)は本体の近くで使用しない。
ひび割れや発熱、引火の原因になります。

注意

- 可燃性ガスの漏れるおそれのある場所への設置は行わない。
万一ガスが漏れて、ユニットの周囲にたまり、発火の原因になります。
- ドレン工事は、この据付説明書に従って確実に排水するように配管する。
不確実な場合は室内に浸水し、窓財などをぬらす原因になることがあります。
- 室外ユニットの天板を外すときは強くにぎらない。
鋭利な板金によりけがの原因になることがあります。
- 室内外ユニットの吸込口やアルミフィンに触らない。
けがの原因になることがあります。
- フレアナットはトルクレンチなどで指定の方法で締め付ける。
フレアナットの締め付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になることがあります。
- 室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所には設置しない。
小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙、発火の原因になることがあります。また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。

据付場所の選定

●据付場所は、お客様の同意を得て決定してください。

室内ユニット

- 右図の据付所要スペースで示す据付制約が守れる所。
- 吸込口・吹出口に障害物のない所。
- 直射日光のあたらない所。
- 近くに熱や蒸気の発生がない所。
- 機械油などの油の蒸気が発生しない所。
(室内ユニットの寿命が短くなる場合があります。)
- 冷(温)風が部屋全体に行きわたる所。
- 電子式点灯方式(インバーターまたはラピッドスタート方式)の蛍光灯から出来るだけ離れた所。(リモコンの受信距離が短くなる場合があります。)
- テレビ、ラジオなどから1m以上離れた所。
(映像が乱れたり、雑音が生じることがあります。)
- 火災警報器から吹出口までが、1.5m以上離れた所。

室外ユニット

- 右図の据付所要スペースで示す据付制約が守れる所。
- 排水されたドレン水が流れても問題のない所。
- 吸込口・吹出口に障害物のない所。(降雪地では、雪でふさがれない所。)
- 雨、直射日光があたりにくく、風通しのよい所。
- 消防法および都道府県の条例などを満足する所。
- 可燃性ガスの漏れるおそれのない所。
- 吹出側正面から強風が連続的に吹き付けない所。
(ファンが高速で逆回転し、破損するおそれがあるため。)
- 海岸地域など塩分が多い所、硫化ガス成分が多い所、機械油などの油の蒸気が発生する所では、室外ユニットの寿命が短くなる場合があります。
- 運転音や冷(温)風が隣家の迷惑にならない所。
(特に隣家との境界線では、環境基本法第16条の規定に基づく騒音に係る環境基準および都道府県の条例などを満足すること。)
- テレビ、無線機などのアンテナより3m以上間隔を取れる所。

リモコン

- 部屋に蛍光灯が取り付けられている場合は、蛍光灯を点灯させリモコンの信号を室内ユニットが受信できる位置に取り付けてください。

付 属 部 品

室内ユニット

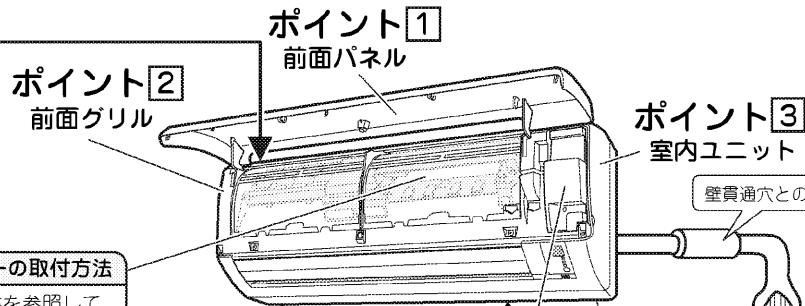
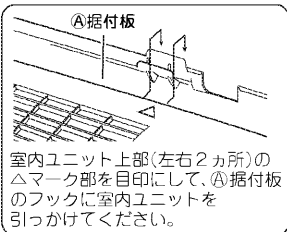
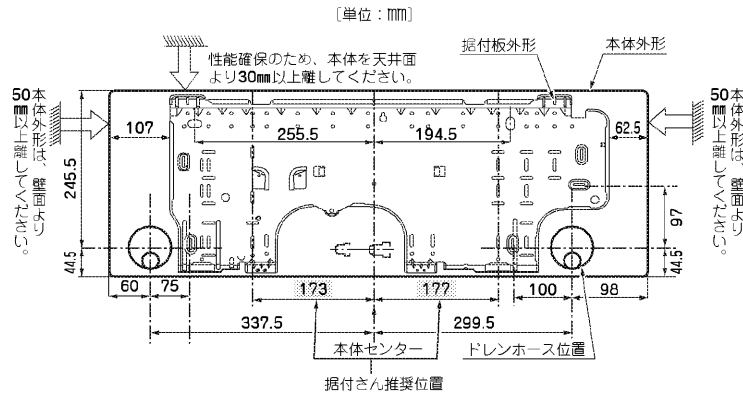
<p>① 据付板</p> <p>1枚</p>	<p>② 据付板取付ネジ M4×25L</p> <p>6本</p>	<p>③ リモコンホルダー</p> <p>1個</p>	<p>④ ワイヤレスリモコン</p> <p>1個</p>	<p>⑤ 断熱テープ</p> <p>1本</p>	<p>⑥ リモコンホルダー取付ネジ M3×20L</p> <p>2本</p>
<p>⑦ 取扱説明書</p> <p>⑧ 据付説明書</p> <p>⑨ 保証書</p> <p>各1部</p>	<p>⑩ 乾電池単4</p> <p>2本</p>		<p>⑪ 室内ユニット固定ネジ M4×12L</p> <p>2本</p>	<p>⑫ 光触媒集塵・脱臭フィルター</p> <p>1個</p>	<p>室外ユニット</p> <ul style="list-style-type: none"> ●システムバック・システムマルチ、ワイドセレクトマルチの場合、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書を確認してください。

※保証書は、システムバック用室内ユニットには付属していません。システムバック用室外ユニットに付属しています。

室内外ユニット据付図

- ①真空ポンプを使用しエアバージを行ってください。
- ②移設する場合は、必ずポンプダウンを行い室外ユニットへ冷媒を回収してください。
- ③室内ユニットは前後左右の傾きに注意してください。

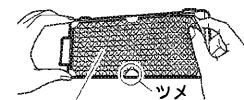
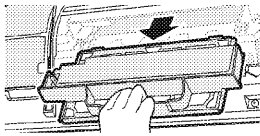
室内ユニットの据付所要スペース



①光触媒集塵・脱臭フィルターの取付方法

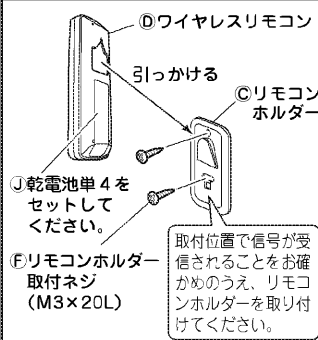
- 取付方法の詳細は取扱説明書を参照してください。

ストリーマユニットを取り外し、①光触媒集塵・脱臭フィルターを取り付けます。



- 光触媒集塵・脱臭フィルター
ストリーマユニットの裏面に取り付けます。
●上下、および表裏の区別はありません。

ワイヤレスリモコンとリモコンホルダーの取付方法



天井面から300mm以上の作業スペースを考慮してください。

吹出側正面から強風が吹き付け、ファンが破損するおそれがある場合は、室外ユニット吹出側の向きを変更するか、風向調整板(別売品)を使用してください。

水はけの悪い場所では平置台(または樹脂製置台)の上に置いてください。室外ユニットは水平位置に据え付けてください。水漏れ、水たまりの原因となります。

●室外ユニットの壁置きなどの据付けで振動が大きいときは、室外防振ゴム別売品(KKSR921A4)を使用してください。

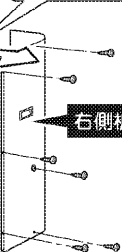
(室外ユニットの形状は機種によって異なります)

平置台(別売品)

- システムバック・システムマルチの場合、配管長・高低差・据付寸法等はマルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。
- ワイドセレクトマルチの場合、配管長・高低差・据付寸法等はBPユニットに付属の据付説明書に従ってください。

配管化粧カバー(別売品)

配管、電装品サービススペースを考慮してください。



室外ユニットの据付所要スペース

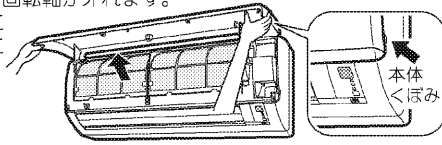
- システムバック・システムマルチ、ワイドセレクトマルチの場合、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。

ポイント

1 前面パネルの取外しかた、取付けかた

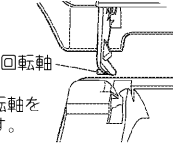
■取外しかた

- ①本体くぼみ(左右2カ所)に指をかけ、パネルが止まる位置まで開けます。
- ②さらに前面パネルを開きながら、前面パネルを右にスライドさせ手前に引くと、左側の回転軸が外れます。



■取付けかた

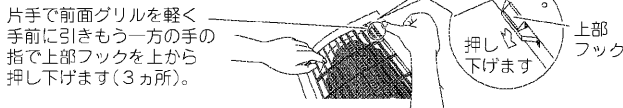
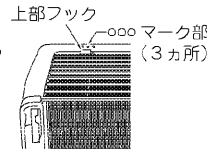
- 前面パネルのツメを溝に合わせ、奥まで押し込みます。そのままゆっくりと閉じます。
- 右側の回転軸は、左にスライドさせ、手前に引くと外れます。
- 前面パネルの回転軸を溝に押し込みます。



2 前面グリルの取外しかた、取付けかた

■取外しかた

- ①前面パネルを外し、エアフィルターを外します。
- ②前面グリルのネジ(2本)を外します。
- ③前面グリルの $\circ\circ\circ$ マーク部の手前に上部フック(3カ所)があります。片手で前面グリルを軽く手前に引き、もう一方の手の指で上部フックを上から押し下げます。

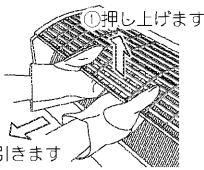


(天井面が近く作業スペースがない場合)

▲注意

必ず保護用手袋を着用してください。

フラップ(水平羽根)を外し、前面グリルの下部を手前に引いて取り外してください。外れにくい場合は、前面グリルの中央の天格子の下に両手を入れ上に押し上げながら手前に引いてください。



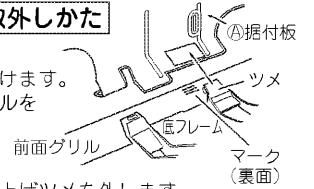
■取付けかた

- ①前面グリルを取り付け、上部フック(3カ所)を確実に引っかけます。
- ②前面グリルのネジ(2本)を取り付けます。
- ③エアフィルターを取り付け、前面パネルを取り付けます。

3 室内ユニットの取付けかた、取外しかた

■取付けかた

- 底フレームのツメをA据付板に引っかけます。ツメが引っかからない場合は前面グリルを取り外して作業してください。



■取外しかた

- 前面グリル下のマーク部分を上へ押し上げツメを外します。外れない場合は、前面グリルを外して作業してください。

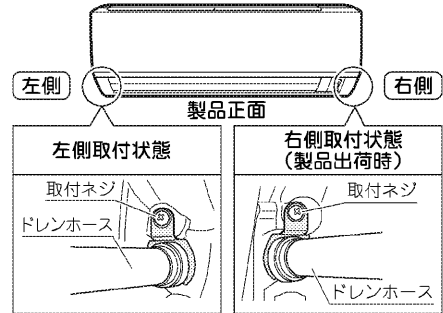
4 ドレンホース、ドレンプラグの付替えかた

ドレンホースを左側へ付け替える方法

- ①右側の取付ネジを外してドレンホースを抜き取ります。
- ②左側にあるドレンプラグを抜き取り、右側に取り付けます。
- ③ドレンホースを差し込んで、取付ネジで取り付けます。

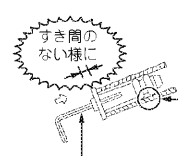
ドレンホース取付位置

※ドレンホースは製品背面にあります。



ドレンプラグの付けかた

差込み時、潤滑油(冷凍機油)などを塗布しないでください。塗布すると劣化し、水漏れの原因になります。



据付板の取付け

● **室内外ユニット据付図** 室内ユニットの据付所要スペースを参照し、下記いずれかの方法で取り付けてください。

● A据付板は室内ユニットの背面にあります。

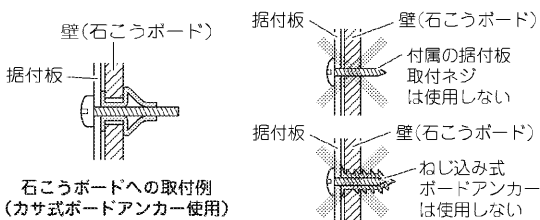
■壁に直接取り付ける場合

- ①A据付板を仮止めし、水平を確認します。
- ②メジャーを使って穴あけ位置を確認します。
- ③A据付板を壁に固定します。

ネジ取付例の位置にネジ止めすることをおすすめします。

▲注意

- 石こうボードの壁に直接取り付ける場合、付属の据付板取付ネジは使用しないでください。付属のネジは、木ネジのため、石こうボードには固定できません。
- 石こうボードに直接取り付ける場合、適切な固定具を選択し、使用方法をよく確認した上で使用してください。
- ねじ込み式ボードアンカーでは、極端に保持強度が落ちる場合がありますので使用しないでください。



■回り縁と鴨居に取り付ける場合

別売品の据付さんを用意してください。

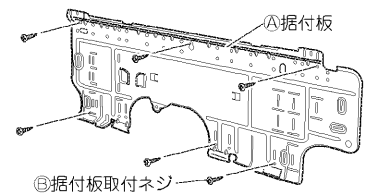
- ①A据付板を据付さんに仮止めします。
 - 寸法は、420~700mmまで調節できますが、420mm以下でご使用の場合は、据付さんを切って調節してください。
 - 据付状態により、据付さんを上下逆で使用することもできます。
- ②メジャーを使って穴あけ位置を確認し、据付さんを固定します。
- ③A据付板の水平を確認し、仮止めしたネジを締めます。

ネジ取付例の位置にネジ止めすることをおすすめします。

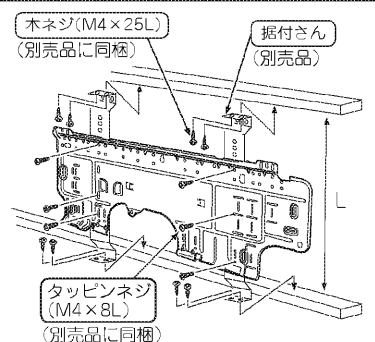
▲警告

据付けは、重量に十分耐える所に確実に行ってください。

据付板を壁に固定するネジの取付例



据付板を据付さんに固定するネジの取付例



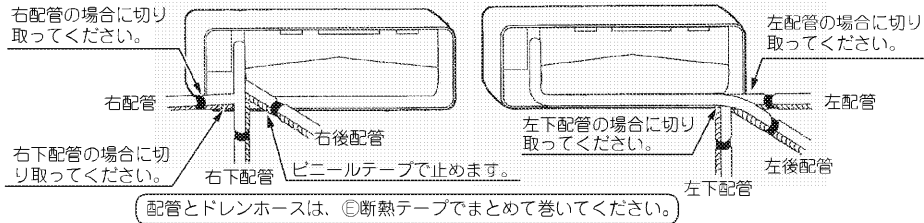
室内ユニットの据付け①

1 据付板の取付け、穴あけ

据付場所を確認してください。
詳細は **据付板の取付け**、裏面の **穴あけ** を参照してください。

2 室内ユニットの据付け

●排水をより確実にするために、ドレンパンのホース接続側がドレンプラグ側よりも上にならないように据え付けてください。
下記、配管取出し方向により据え付けてください。

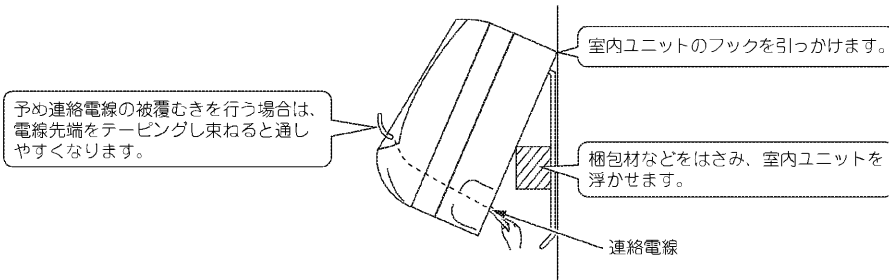
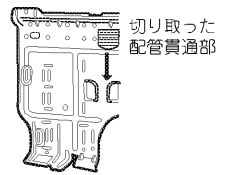


右、右後、右下配管の場合

- ①ドレンホースが補助配管の下側になるようにテープ止めします。
- ②ドレンホースと補助配管を壁穴に通し室内ユニットを㊸据付板に引っかけます。
- ③前面パネルをあげ、サービスぶたをあげます。
- ④連絡電線を室外側から壁穴に通し、室内ユニット背面から前面へ引き出します。
予め配線の先端を上へ曲げておくと引き出しやすくなります。
- ⑤連絡電線をはさまないように注意しながら、室内ユニットの下部を両手で押しつけ、ツメに引っかけます。
- ㊸据付板と室内ユニットが確実に引っかかっていることを確認してください。
- ⑥配管を接続します。

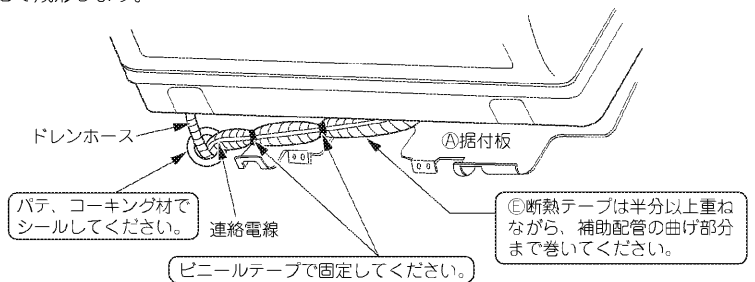
切り取った配管貫通部の保管

- 室内ユニットの配管貫通部を切り取った場合は㊸据付板に保管してください。
(移設時に必要な場合があります。)



左、左後、左下配管の場合

- ①ドレンプラグとドレンホースを付け替えます。
(**ポイント** 4 **ドレンホース、ドレンプラグの付替えかた** を参照してください。)
- ②冷媒配管を据付板上に刻印されている液管、ガス管のマークに合わせて成形します。
- ③室内ユニットを㊸据付板に引っかけます。
- ④連絡電線を引き込みます。
- ⑤配管を接続します。
- ⑥配管の断熱材を㊸断熱テープで巻きます。
- ⑦連絡電線をはさまないように注意しながら、室内ユニットの下部を両手で押しつけ、ツメに引っかけます。

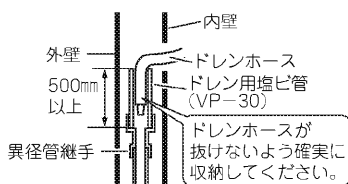


警告

連絡電線を結束バンドやビニタイなどで束ねないでください。発熱、感電、火災の原因となります。

埋込配管の場合

- **左、左後、左下配管の場合** に準じて行います。



(裏面につづく)

室内ユニットの据付け②

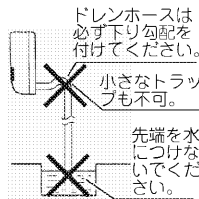
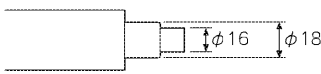
配管工事について

- 冷媒配管接続部は、フレア中心を合わせ最初手回しで3～4回転ねじ込み、その後所定のトルクでしっかりと締め付けます。必ず2丁スパナでトルクレンチを使用してください。
(断熱方法と締付トルクについては、**室内外ユニット据付図**、**室外ユニットの据付け**を参照)

ドレン工事について

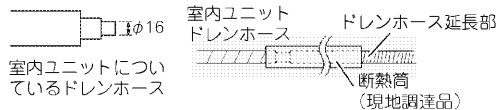
- ドレン工事は、特に下図の点に注意してください。
- ドレンホースの延長または埋め込み配管を行うときは先端形状にあった部材を使用してください。【下記参照】

【ドレンホースの先端形状図】

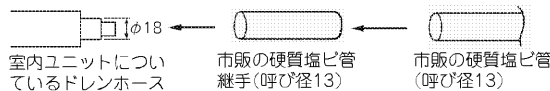


室内側にあるドレンホースの延長部は、必ず断熱してください。また、延長部が抜けまいよう、引っぱり過ぎに注意してください。

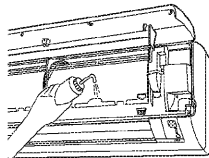
- ドレンホースを延長する場合は、内径16mmの市販の延長用ドレンホースを使用してください。



- 埋め込み配管などでドレンホースに直接硬質塩ビ管(呼び径13)を接続する場合は、市販の硬質塩ビ管継手(呼び径13)を使用してください。



- ドレンチェックは、エアフィルターを外し、水を熱交換器に伝わらせてドレンパンにそそぎこみ、ドレンホースから水が流れ出ることを確認してください。



注意

換気扇などを使用した場合ドレンホースから異音(ボコボコ音)が発生することがあります。その場合はドレンホース用逆止弁を使用してください。(別売品：KHDT1416を推奨します。)

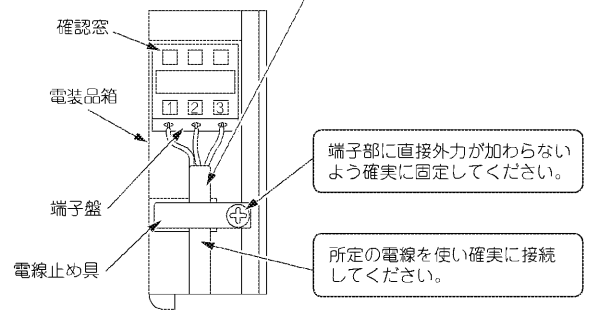
配線工事について

警告

- 据付工事は、必ず電源を切って行ってください。電源を入れたまま電気部品に触れると、感電の原因になります。
- 配線の途中接続、より線や延長コードの使用、タコ足配線はしないでください。発熱、感電、火災の原因となります。
- 現地調達の電気部品を製品内に組み込まないでください。
(ドレンポンプなどの電源は、端子盤から分岐させないでください。)
発熱・火災の原因になります。
- 設置場所によっては、漏電しゃ断器の取付けが必要です。
漏電しゃ断器は通常タイプをご使用ください。(高感度タイプを使用する場合は、高周波・サージ対応型をご使用ください。)
- 電気工事は、電気工事士の資格のある方が「電気設備に関する技術基準」「内線規程」に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。

- ①電線の被覆むきを行います。(必ず15mm)
- ②電線の色を確かめ、端子盤のそれぞれの挿入口より奥にあたるまで確実に差し込みます。
- ③確実に電線が挿入されているか確認窓で確かめます。
- ④電線を引っぱり、抜けないことを確かめた後、電線止め具で電線を固定します。
- ⑤サービスふたを取り付けます。

サービスふたなどの構造物が浮き上がらないよう電線を成形してください。



- システムバック・システムマルチの場合**、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。
- ワイドセレクトマルチの場合**、BPユニット、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。
- 室内アース工事、HAシステムとの接続、室内ユニットを2台設置される場合は各々裏面の**アース工事**、**HAシステムと接続する場合**、**同じ部屋に室内ユニットを2台設置される場合**を参照してください。

室外ユニットの据付け

- システムバック・システムマルチの場合**、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。
- ワイドセレクトマルチの場合**、BPユニット、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。

フロンについて

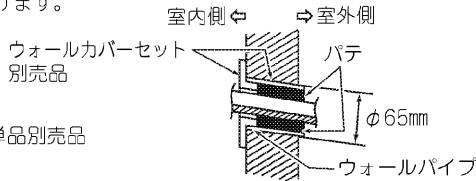


家庭用マルチエアコンには最大でCO₂(温暖化ガス)10,500kgに相当するフロン類が封入されています。地球温暖化防止のため、移設・修理・廃棄等にあたってはフロン類の回収が必要です。

この表示は家庭用エアコンに温暖化ガス(フロン類)が封入されていることを、ご認識いただくための表示です。

穴あけ

- ①壁にφ65mmの穴を、室外側が下がり勾配にあけます。
- ②ウォールパイプを穴に通します。
- ③ウォールカバーをウォールパイプに差し込みます。
- ④パテを使って仕上げます。



●ウォールカバー単品別売品
もあります。

警告

特にメタルラス、金属板を使用している壁を貫通させるときは、ウォールパイプとウォールカバーを必ず使用してください。発熱、感電、火災の原因になります。

注意

壁貫通穴とのすき間は必ずパテ埋めをしてください。水漏れの原因となります。

必要な
ときに

HAシステムと接続する場合

*室内ユニットの右側に作業スペースがある場合は、電装品箱を取り付けたまま作業が可能です。電装品箱を外す、または固定する作業は省略し、作業を効率よく行ってください。

システムバックの場合

(詳細はHA基板に付属の取付説明書を参照してください。)

1. 前面グリルを外します。(ネジ2本)
2. サービスぶたを外します。(ネジ1本)
3. 電装品カバーを外します。【図1】
- * 4. 電装品箱を外します。【図1】
 - ①連絡配線を外します。
 - ②ファン電動機用コネクタ(S1)、スイング電動機用コネクタ(S6)、ストリーマコネクタ(S52)を外します。
 - ③サーミスタ、アース線を熱交換器から外します。(ネジ1本)
 - ④電装品箱取付ネジを外します。(ネジ1本)
5. HA基板(別売品)を取り付けます。【図2】
 - ①HA基板(別売品)を電装品箱へ取り付けます。
 - ②HA基板(別売品)のコネクタを電装品箱のコネクタ-S403に挿入します。
6. HA接続コードを取り付けます。【図2、3】
 - ①HA接続コードをHA基板(別売品)のHAコネクタ「S21」(白色)に挿入します。(JEM-A規格対応HAコネクタ「S16」は青色です。)
 - ②HA接続コードを図3のように引き回します。
7. HA基板のアース線を、アース端子に接続します。
- * 8. 電装品箱をもとどおり固定します。
 - ①電装品箱取付ネジを取り付けます。(ネジ1本)
 - ②サーミスタ、アース線を熱交換器にもとどおり取り付けます。
 - ③ファン電動機用コネクタ(S1)、スイング電動機用コネクタ(S6)、ストリーマコネクタ(S52)をもとどおり取り付けます。
 - ④連絡配線をもとどおり差し込みます。
9. 電装品カバーをもとどおり取り付けます。
10. サービスぶたを取り付けます。
11. 前面グリルをもとどおり取り付けます。

システムマルチ、ワイドセレクトマルチの場合

1. 前面グリルを外します。(ネジ2本)
2. サービスぶたを外します。(ネジ1本)
3. 電装品カバーを外します。【図4】
- * 4. 電装品箱を外します。【図4】
 - ①連絡配線を外します。
 - ②ファン電動機用コネクタ(S1)、スイング電動機用コネクタ(S6、S49)、ストリーマコネクタ(S52)を外します。
 - ③サーミスタ、アース線を熱交換器から外します。(ネジ1本)
 - ④電装品箱取付ネジを外します。(ネジ1本)
5. HA接続コードを取り付けます。【図5】
 - ①HA接続コードをHAコネクタ「S21」(白色)に挿入します。(JEM-A規格対応HAコネクタ「S16」は青色です。)
 - ②HA接続コードを図5のように引き回します。
- * 6. 電装品箱をもとどおり固定します。
 - ①電装品箱取付ネジを取り付けます。(ネジ1本)
 - ②サーミスタ、アース線を熱交換器にもとどおり取り付けます。
 - ③ファン電動機用コネクタ(S1)、スイング電動機用コネクタ(S6、S49)、ストリーマコネクタ(S52)をもとどおり取り付けます。
 - ④連絡配線をもとどおり差し込みます。
7. 電装品カバーをもとどおり取り付けます。
8. サービスぶたを取り付けます。
9. 前面グリルをもとどおり取り付けます。

<p>図1 電装品箱の位置確認</p> <p>警告</p> <p>取付工事は、必ず電源を切って行ってください。電源を入れたまま電気部品に触れると、感電の原因になります。</p> <p>電装品箱</p> <p>室内ユニットの右側に作業スペースがある場合は、電装品箱を取り付けたまま作業が可能です。</p>	<p>図2 HA基板(別売品)の接続箇所について</p> <p>HA基板(別売品)</p> <p>S403へ挿入</p> <p>JEM-A規格対応HAコネクタ「S16」(青色)</p> <p>HAコネクタ「S21」(白色)</p> <p>HA基板を電装品箱へ取り付ける方法</p> <p>[HA基板の裏]</p> <p>スペーサー</p> <p>電装品箱</p>
<p>図3 HA接続コードの引き回しかた</p> <p>JEM-A規格対応HAコネクタ「S16」(青色)</p> <p>HAコネクタ「S21」(白色)</p> <p>電装品箱</p> <p>HA基板(別売品)</p>	<p>図5 HA接続コードの引き回しかた</p> <p>JEM-A規格対応HAコネクタ「S16」(青色)</p> <p>HAコネクタ「S21」(白色)</p> <p>電装品箱</p>

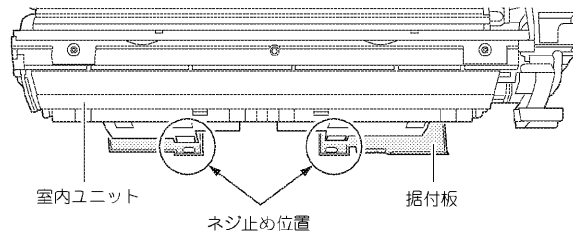
<p>図4 電装品箱の位置確認</p> <p>電装品箱</p> <p>室内ユニットの右側に作業スペースがある場合は、電装品箱を取り付けたまま作業が可能です。</p> <p>アース端子</p> <p>電装品箱取付ネジ</p> <p>電装品カバー</p> <p>ツメを外す</p>	<p>図5 HA接続コードの引き回しかた</p> <p>JEM-A規格対応HAコネクタ「S16」(青色)</p> <p>HAコネクタ「S21」(白色)</p> <p>電装品箱</p>
--	---

固定強度向上について

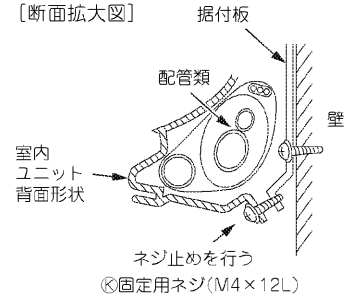
固定強度向上のため、室内ユニットを据付板にネジ止めすることをおすすめします。

- ① 前面グリルを外します。
- ② 室内ユニットを⑧固定用ネジでネジ止めします。
- ③ 前面グリルを取り付けます。

■ネジ止め位置 〔正面図〕



〔断面拡大図〕

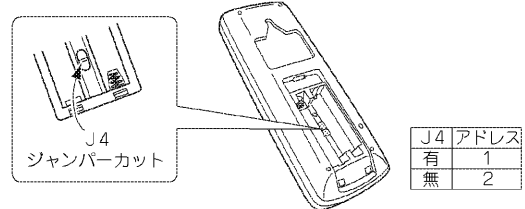
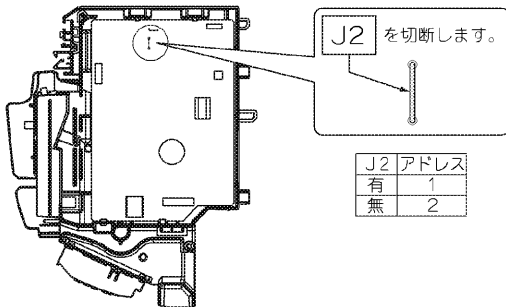


必要なときに

同じ部屋に室内ユニットを2台設置される場合

同じ部屋に室内ユニットを2台設置される場合、2台のうちどちらか一方のアドレスを設定変更してください。ジャンパーカット時には、周囲の部品を傷つけないよう注意してください。

- ① **HAシステムと接続する場合**と同様に板金製の電装品カバーを外します。
- ② アドレスジャンパー「J2」を切断します。
- ③ リモコンのふたを外してアドレスジャンパー(J4)を切断します。



アース工事

- **システムバック・システムマルチの場合**、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。
- **ワイドセレクトマルチの場合**、BPユニット、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。

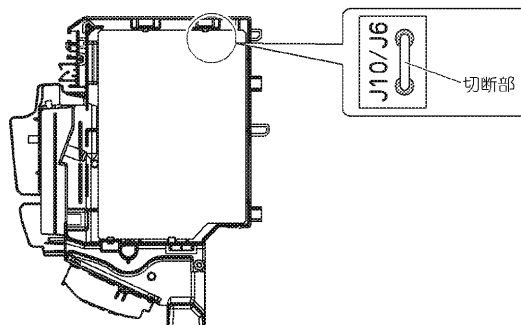
必要なときに

他室運転機能を「切」にする場合

システムバック・システムマルチ用室内ユニット のみ他室運転機能があります。
ワイドセレクトマルチ用室内ユニット については対象外です。

- ① 電装品カバーを取り外します。**HAシステムと接続する場合**を参照ください。
- ② ジャンパー「J10」/「J6」を切断します。【図1参照】
- ③ もとどおり前面グリルを取り付けます。

【図1】



システムマルチの場合

ジャンパーを切断する以外に、リモコンの設定で「切」にすることもできます。詳細は取扱説明書を参照してください。

試運転と確認



- システムバック・システムマルチの場合、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。
- ワイドセレクトマルチの場合、BPユニット、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。

前面クリルを必ず取り付けてから、試運転を行ってください。

試運転と確認

- ①電源電圧を測定し、仕様どおりか確認します。
- ②試運転は必ず冷房または暖房運転のどちらかで行ってください。冷房運転のときはいちばん低い設定温度に、暖房運転のときはいちばん高い設定温度に合わせます。
 - 室内温度によっては冷房・暖房どちらか一方しか運転できないことがあります。
 - 試運転後には適切な温度(冷房の場合26～28℃、暖房の場合20～22℃)に戻してください。
 - 停止後3分間は機械保護のため運転を行いません。
- ③取扱説明書をもとに運転操作を行い、異常なく作動することを確認します。
- ④リモコンのアドレススイッチの設定を確認します。
出荷時はアドレススイッチ「1」です。
 - エアコンを運転しないときでもいくらか電力を消費しています。
据付け後、お客様がすぐに使用されない場合などは、むだな電力消費をさけるためブレーカーを切ってください。

試運転モードの方法 (リモコンを使用します)

- ①「運転/停止」ボタンを押します。(運転開始します。)
 - ②温度▲ボタン、温度▼ボタン、「運転切換」ボタンを3つ同時に押します。
 - ③「運転切換」ボタンを2回押すと試運転モードになります。画面に「」が表示されます。試運転は、「空清」以外で確認してください。(「」が表示され試運転モードになります。)
- 試運転モードは約30分で終了し、自動的に停止します。強制的に試運転を終了させたいときは、「運転/停止」ボタンを押してください。

据付工事後に、必ず確認してください。

確認項目

チェック項目 欄でチェック(☑)をしてください。

チェック項目	不良の場合
<input type="checkbox"/> 室内外ユニットはしっかり据え付けられていますか。	落下・振動・騒音
<input type="checkbox"/> 光触媒集塵・脱臭フィルターをストリーマユニットに取り付けましたか。	ストリーマ性能低下
<input type="checkbox"/> ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない 暖まらない
<input type="checkbox"/> 断熱は完全に行いましたか。(ガス管、液管、室内ユニット側のドレンホース延長部)	水漏れ
<input type="checkbox"/> 室内ユニットのドレンの排水は確実ですか。	水漏れ
<input type="checkbox"/> 室外ユニットのドレン工事が必要かお客様に確認しましたか？	室外ユニット底面穴からのドレン水の滴下
<input type="checkbox"/> 換気扇などを使用した場合、ドレンホースから異音(ポコポコ音)は出ませんか。	別売品ドレンホース用逆止弁使用
<input type="checkbox"/> アース線の接続は確実ですか。	漏電時危険
<input type="checkbox"/> 電線は仕様どおりですか。	運転不能・焼損
<input type="checkbox"/> 室内外ユニットの吸込、吹出口が障害物でふさがっていませんか。 <input type="checkbox"/> 閉鎖弁は開いていますか。	冷えない 暖まらない
<input type="checkbox"/> ワイヤレスリモコンの送受信は確認しましたか。	運転不能
<input type="checkbox"/> アドレススイッチの設定は確認しましたか。	運転不能

- ワイヤードリモコンを接続する場合
おそうじサインのリセット時には、付属のリモコンが必要になります。
廃棄しないようお客様に説明してください。

機種名	製造番号	据付年月日	据付担当サイン欄

- この据付説明書は、取扱説明書と一緒に必ず保管してください。(据付工事後、お客様にお渡しください。)

3P298162-1A